

「美」とは何か 1学期学年末テスト2組より

●「美」について学習する前は、うまく作れた作品やきれいに描けた作品だけだと思っていたけど、今回の美術授業で学んでいくうちに「美」とは、「それぞれの感じ方」で違うものだと思えてきた。

一人ひとり感じ方が違うからこそ、世界には色々な形の「美」が存在する。当たり前のように過ごしている毎日にも数えきれないほどの美があって、そのような毎日の身近なところに目を向けることで様々な「美しさ」に気づくことができ、感性も豊かになる。

日本には日本の「美」があり、他の国にもその国なりの「美」があり、大切にしていけるものだと思う。また、その美しさを感じれるとれる心は、人を豊かにもしてくれるものだと思う。

2組 池田 依里

◆美の捉え方が問題なんだよね。「うまく作れた作品やきれいに描けた作品」という既成概念を崩壊させようとしたのが、デュシャン（ダダ運動）だった。さらに西洋伝統絵画は、庶民の日常的なものではなかった。そんなかけ離れた芸術を「日常」や「消費大衆社会」の中で問い直し、新しい捉え方を模索しようとしたのが、ネオダダであり、ポップアートだったんだね。

◆様々な時代や地域から「美」に対する「新しい発見」「新しい価値観」を感じ取れる心を磨かないとね。西洋で流行したジャポニスムは、まさに印象派の画家たちにとっては「新しい発見」「新しい価値観」だったんだよ。ピカソは「アフリカ芸術」から、岡本太郎（太陽の塔）は「縄文芸術」から・・・

●私は、観る人や場所、いつ見たかで「美」が変わってくると思います。今見る作品と50年後見る絵では印象が変わると思います。（価値観も変化するし）なので美とは一人ひとり違う人生の財産なのだと思います。

でも、死後でも愛される芸術家もいます。その人の名前を聞くだけで美術館が一杯になることもあります。一人ひとり違う価値を持っているのに、みんなが鑑賞に来るのは、きっとその芸術家の腕なんだと思います。

その芸術家が伝えたいメッセージがあって、それを伝えるためにテクニックみたいなものを駆使し絵を描いて、最初はそのテクニックに圧倒させられるだけだけど、何回も見ると、その絵が伝えたい意味や作者の気持ちが理解でき感動してしまう。そういうものが「美」だと思う。文化が違えど、主食が違えど、どんな人でも圧巻させられてしまう作品が、海を越え、時を超えてつながっていく、それが「美」であり芸術なんだと思いました。

2組 岩田 紗弥

◆模範解答の一例に僕はくいつの時代の作品もそうだが、強く求められたものは「本物の感動」をもたらしてくれる作品であり、「本物の創造的な個性」が感じられる作品である。つまり、「美」とは「美術」とは、各時代に生き求められ続けた「美の証の造形活動」であり、その造形活動の「多種多様な個性への感動共感」である。》と・・・

◆2学期にまた学ぶけど、「琳派」＜俵屋宗達→尾形光琳→酒井抱一＞は世界的に通用する現代デザインとして、今なお影響を与えている。さらに、彼ら3人の絵師たちも17C宗達、18C光琳、19C抱一と100年ごとに、それぞれの造形にあこがれ、影響を与えながら受け継がれた。まさに岩田さんが言う「海を越え、時を超えてつながっていく、それが「美」であり芸術」なんでよね。

●何の目的で、何を使って、何を描いてても、作者の心の内や考えを表現する。そして、その作者の気持ちや考えが絵によって鑑賞してくれる人々に伝わり「わあっ」と思わせ、人々の心を魅了する。このような状態が時代を超えても変わらなくて、続くものこそが「美」であると思います。

また、私がいつも絵画を鑑賞して、心が癒されて、引き付けられていたのは、きっと絵画の魅力に私が引き付けられていたからだ。よって美は、人々の心を癒してくれるものでもあるのです。

2組 多田 紗

●美術、美とは、作者が生きているその時代に、作者が感じたことや考えたことを形に残し、後世に伝えていこうとする思いが込められた作品だと思う。そして、その作品が鑑賞者に伝わり、様々な影響や新しい考え（価値）を与えること。これも美術であり美である。

つまり、移り変わる時代に生きた作者の考えや思いを後世の私たちに伝えることができるものが本当の美だと思う。時代が変わり、人々の考えることも変わっていく。美術史を観ていくと、つねに新しい、違う種類の作品が生まれる。その時代に生きた作者の形なのだから違うのは当たり前だが、そんな「美術」を私は好きになれた。（共感）

2組 山内 桃乃

◆美とは何か？本当に難しい問いだね。何人かの生徒が論じてくれた「自分が美と思えば、それが美だ」という主観論のみでは、語れないと僕は思う。やはり客観的な美の存在は、否定できないだろう。

また、「自然（地球）すべてが美だ」という論を展開してくれた生徒は、少し視点が違う。今回は「西洋美術史の流れの中で、人間が作り出した造形物」という視点で論じてくれないとね。

◆今日の4人の生徒たちの論をまとめると

- ①新しい発見をさせてくれる個性がある。
- ②新しい価値を与えてくれる個性がある。
- ③新しい驚きを与えてくれる個性がある。そんな作品の中に美がある。
- ④また、その「個性・美」は、地域を超えて、時代を超えて、人々を共感させることができる

◆さあ日本美術史の中では、「美」はどうか？日本独自の美意識はあるのだろうか？